

# 4年 社会科 学習指導案

## 「東京の特色ある地域の様子 ～江戸の文化を伝える浅草～」

渋谷区立神宮前小学校 学級 4年1組(24名)

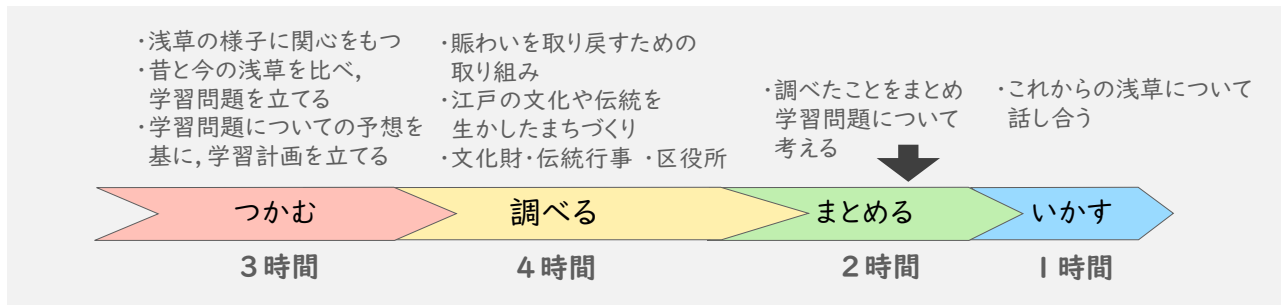
### 小単元の目標

- ①東京都の浅草について、位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、各種の資料で調べ、地域の様子を捉え、その特色を考え表現する。
- ②浅草では、人々が協力し、伝統的な文化を保護・活用してまちづくりや観光など産業の発展に努めていることを理解する。
- ③主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①浅草の位置や人々の活動の歴史的背景、人々の協力関係などについて、各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、浅草の様子を理解している。 ②調べたことをまとめ、浅草では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	①浅草の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて、問いを見だし、浅草の地域の様子について考え、表現している。 ②浅草の人々の活動や産業と地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、浅草の特色を考え、適切に表現している。	①浅草の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②東京都民の一人として、浅草に受け継がれる伝統的な文化の素晴らしさや、それを伝えていくことの大切さについて考えようとしている。

### 小単元の指導計画(全10時)



### 「自ら学びに向かう児童の育成」の実現を目指した学年の取り組み

「自ら学びに向かう児童の育成」というテーマのもと、中学年は、「それぞれの学習ツールの良さを理解して活用し、相手に伝わるように工夫して発信しながら、他者の考えと比較したり関係付けたりして協働的に学ぶ子」を目指す児童像と設定した。

自ら学ぶためには、学び方(学習方略)を身に付ける必要がある。学習方略を習得するには、「モデリング」が重要な役割を果たす(中谷ら, 2021)。すなわち、教師や友達の学び方を観察したり模倣したりすることで学んでいくのである。したがって、自ら学びに向かう児童を育成するために、互いにモデリングし合える学習活動を意識的に設定してきた。それが「協働的に学ぶ」ことの一つの側面だと考える。

中学年ではその「協働的に学ぶ」ことを、2つの要素に分けて考えた。

一つは、「相手に伝わるように工夫して発信すること」である。ともすると発言することやプレゼンすることそのものが目的化してしまいがちである。相手にとって分かりやすかったか、ちゃんと意図が伝わったかを確認させるようにしてきた。

もう一つは、「他者の考えと比較したり関係付けたりすること」である。自分の考えは言うが、相手の意見を聞いていない児童がしばしばいる。比較したり関係付けることを求めれば、丁寧に聞く必要性が生じると考える。

どちらの場合も、教師によるフィードバック、児童による相互/自己評価を通して意識させるようにしてきた。

そういった協働的に学ぶ土台をつくってこそ、モデリングを通して学び方を身に付け、自ら学びに向かう児童を育成できると考える。

そして、その協働的な学びを実現するためのツールとしてICTを位置付けている。中学年の段階では、「それぞれの学習ツールの良さを理解して活用すること」を目指す。良さが分かかってこそ、自分でツールを選択して活用できるようにするからだ。

良さを理解させるには、ただ使うだけではなく、使ってみての良さを明確に言語化させることが必要である。ICTを活用した後は、そのツールを使ってみてどう感じたか、どのような場面に有効だったかを振り返らせる活動を普段から行うようにしてきた。

## 「自ら学びに向かう児童の育成」を実現するためには？



### 本時 (8/10)

ねらい:これまで調べたことをもとに、学習問題に対して、浅草の人々は伝統的な文化を保護・活用してまちづくりに取り組んでいることをまとめることができる。

	学習内容・学習活動	留意点/教材・教具
導入	<p>○これまでの学習を振り返り、学習問題を確認する T 学習問題は何でしたか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">浅草の人々は、観光客がおとずれるように、どのようなまちづくりをしてきたのだろうか。</p> <p>T 今日、学習問題に対する自分の考えをまとめます。</p> <p>○個々の課題を設定し、学習の計画を立てる C 僕は、オクリンクにキーワードと画像でまとめよう。 C 私は、ノートにイラストでまとめて、それを写真で撮ってみんなに共有しよう。</p>	<p>○ルーブリックから目標を選択し、学習計画を記入する。</p> <p style="border: 1px solid pink; padding: 5px;">課題の設定…Teams</p>
	<p>○それぞれで、「情報の収集」「まとめ・表現」を行う</p> <p>C 僕はこれまで調べた中で「歴史」がポイントだと思う。 C 古くから神社やお寺があって、歴史がある街並みが観光客に人気なんじゃないかな。 C だから、浅草の人たちは、歴史が観光客に伝わるように工夫してきたと言えるんじゃないかな。</p> <p>C わたしが調べてきた中では、やっぱり外国からの観光客に人気が出るようなまちづくりをしてきたと思う。 C 日本の伝統が楽しめるようなお土産やイベントもしているもんね。 C 日本の伝統を中心にまちづくりについてまとめていきたいな。</p> <p>C 僕は、新しいものをどんどん取り入れているのが浅草の人たちのまちづくりのポイントだと思う。 C サンバカーニバルも、新しいよね。</p> <p>○調べたことを発表し、話し合う</p>	<p>○学習形態は、児童に委任する。 ・個人で・友達と・先生と</p> <p>○教師は活動している児童の様子を見とり、声掛けをしていく。 ・課題に正対した活動ができていくか ・困ったときはどうすればよいか ・どの資料を参照すればよいか ・学習形態の変更の提案 ・参考になる友達の様子の紹介 など</p> <p style="border: 1px solid pink; padding: 5px;">情報の収集…OneNote・オクリンク等 まとめ・表現…オクリンク</p> <p>○スクリーンに児童の画面を提示し全体でも参照できるようにする。</p>
まとめ	<p>○学習を振り返る 振り返りシートに記入する。 「学習内容(大切だと思ったこと)」と「学習方法(学び方は良かったか)」に分けて記入する。</p>	<p>○教師が個々に声掛けし、児童が気づいていない点などをフィードバックする。</p> <p style="border: 1px solid pink; padding: 5px;">振り返り…One Note</p>

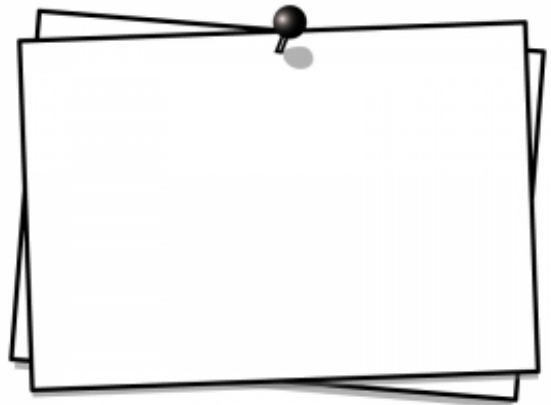
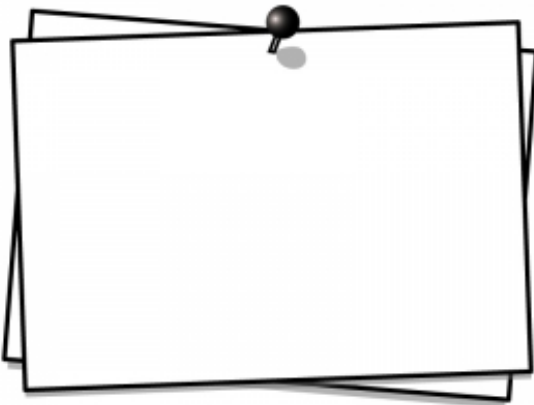
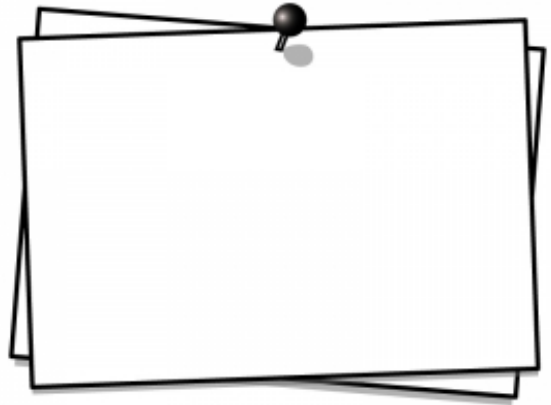
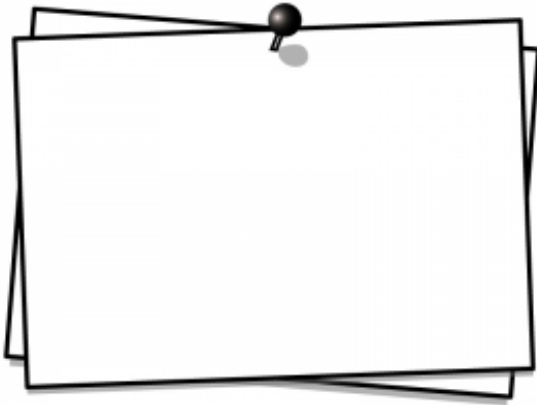
令和5年1月25日

# フィードバックシート

学校名

記入者名

授業者へのメッセージ/フィードバック



自分の授業に活かしたいこと/この授業をもとにした展望

# 単元を貫く授業デザイン/学習環境デザイン

## 学級の発達段階に応じた学習活動を設定する

河村(2022)は、自ら学ぶ力を育てるためには学級集団づくりが不可欠と述べる。そして、学級集団の発達には段階があり、現状に応じた学習活動の設定が重要だとしている。現在、本学級は「全体集団成立期」(図1参照)であると考え、この段階では、児童に学習活動を委任していくため、教師にはファシリテーターとしての役割が求められる。児童が主体となって学習を進めていき、教師はそれを支援していく形で関わる。

委任的な教師の関わり方

## 学習の流れを明示し、児童と共有する

高橋(2022)は、探究的な学習過程として、「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ」→「説明・発表」を提唱している(図2参照)。これまでの社会科の授業でも、この流れを児童に提示し、学習活動を進めてきた。学習の流れが明示・共有化されることで、児童は自分で見通しをもって活動に取り組むことができる。この各過程において、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、深い学びに到達すると考える。

学習過程のパターン化・明示

## 児童の「自己調整」を支援する

4年生当初の学習では、教師が目標を提示し、学習の評価を行ってきた。学習が積み重なってくるにつれ、児童自身が目標を設定し、自己評価する機会を増やすようにした。教師からのフィードバックは行いが、徐々に指導の割合を減らしてきた(図3)。その結果、児童自身が自らの学習活動を「調整」するようになってきた。本授業でも、児童が本時の目標を設定し、振り返って学習を自己評価する。その際、ルーブリックを示すことで、児童にとって目標設定や自己評価がしやすくなることを狙った。

ルーブリックによる目標設定と自己評価

## 学び方を自己選択させる

自分に合った「学び方」の選択

教室にいる多様な児童全員が学習活動に参加するためには、一律の学習方法を教師が与えるのではなく、児童自らが自分に合った方法を選び取れるようにすることが重要である(ホールら,2018)。そのため、年間を通して、様々な学習方法(個別・ペア・グループ・タブレット・紙の本など)を体験し、自ら選択する機会を保障してきた。また学習活動後に学び方を振り返らせたり、それぞれの方法の良さなどをクラス全体で共有することで、より児童が自己選択しやすくなる支援も行っている。

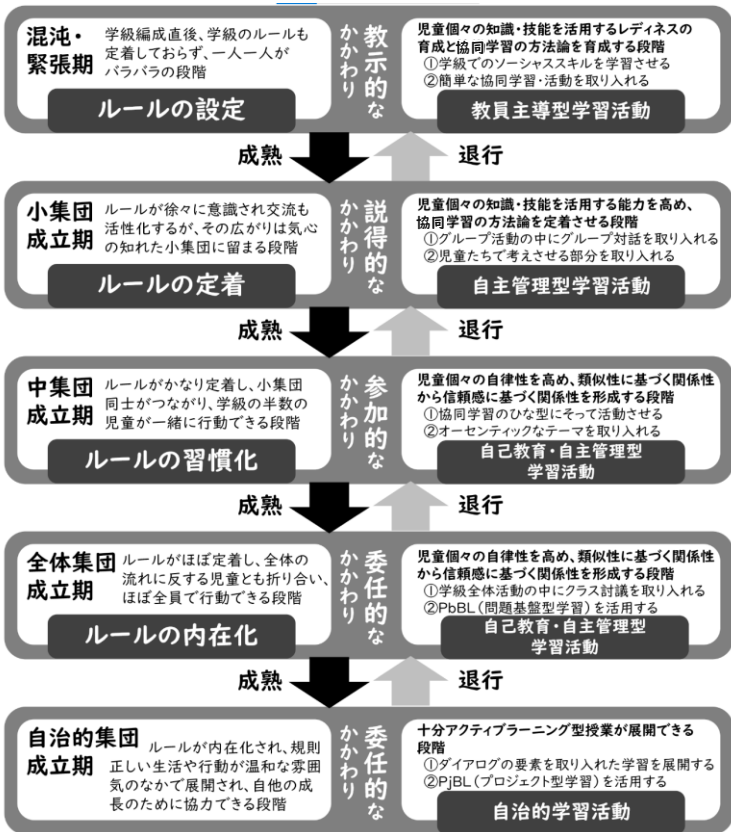


図1: 学級集団の発達段階と学習活動の展開(河村, 2022をもとに白杉作成)

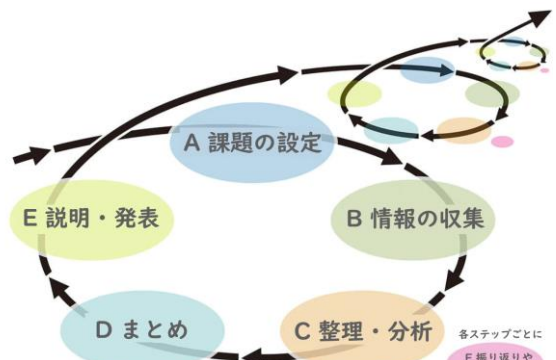


図2: 探究的な学習過程;シンキングサイクル(高橋, 2022)

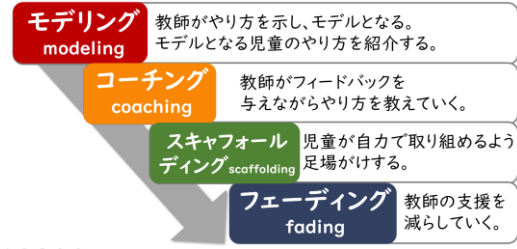


図3: 児童に学習活動を委任していく流れ;認知的徒弟制(大島・千代西尾編, 2019)

## 授業観察の視点

Q: 本時の中でのタブレット活用は適切であったか。

本時に向けて参考にした文献

中谷素之, 岡田涼, 土塚美輪 (2021). 子どもと大人の主体的・自律的な学びを支える実践: 教師・指導者のための自己調整学習 福村出版  
 河村茂雄 (2022). 開かれた協働と学びが加速する教室 図書文化社  
 高橋純 (2022). 学び続ける力と問題解決: シンキング・レンズ, シンキング・サイクル, そして探究へ 東洋館出版社  
 ホール, T.E., ほか編 ; パーンズ亀山静子訳 (2018). UDL 学びのユニバーサルデザイン; クラス全員の学びを変える授業アプローチ 東洋館出版  
 大島純・千代西尾祐司編 (2019) 学習科学ガイドブック; 主体的・対話的で深い学びに導く 北大路書房